

# 社会課題の解決に向け、 お客様と共有する価値をビジョンに掲げ、 実践してきました

## 住む人の幸せと社会課題の解決を目指し、 企業理念と「サステナブル・ビジョン」で 応え続けてきました

経済のグローバル化とともに、社会や地球環境への影響が拡大し、企業に求められる社会的責任が一層重いものとなってきました。安全・安心で快適な暮らしの基盤となる住まいづくりを通じ、社会的責任を果たすべく取り組んできた当社は、住宅業界のトップランナーとして、住宅産業が社会に与える影響の大きさを常に認識し、「持続可能性」を経営の基軸に据えています。

積水ハウスが目指す持続可能な社会とは、地球生態系本来のバランスを保つことを基本に、将来にわたってすべての人々が快適に暮らせる社会のことで、地球温暖化の影響による異常気象や、資源の減少、生態系ネットワークの危機、エネルギーへの不安、日々の健康や高齢社会への対応など、社会全体で取り組むべき課題と住まいは、つながっています。当社はそれらを企業理念の具現化と、「いつもいまが快適」な住まいの提供で解決していくことを事業の根幹としています。そして、「住まう人の幸せ」と「持続可能性」の実現という一貫した思いを、2005年に「サステナブル・ビジョン」として掲げ、お客様やすべての社員と価値観を共有。社会課題の解決に向けた新たな価値を常に提案しています。

### 1989 企業理念の制定

会社は人間によって成り立っており、社員一人ひとりの心の持ち方と関係のあり方こそが、事業・経営の根幹をなすものであり、社会に貢献する根源であると考えています。



### 1960

#### 積水ハウス創立

### 1960

#### 1961

業界初のメーターモジュールで設計自由度の高いプレハブ住宅を提案  
**「B型」発売**



#### 1966

建築前に外観や室内空間を確認できる実物を展示  
**全国初の常設総合住宅展示場に出展**

#### 1973

「責任施工」体制を強化し自社管理で高い施工品質を確保  
**積和工事設立**  
滋賀・関東両工場が生産部材の品質管理で通商産業省の新制度認定第1号に  
**優良工場に認定**

#### 1977

コミュニティ喪失という社会課題に対して  
コモン(共有)がテーマの分譲地を計画・販売  
**「コモンライフおさゆき」分譲開始**

### 1980

#### 1979

1978年の宮城県沖地震の地震波を再現し災害に備えた住まいの耐震性を実証

**住宅業界初の  
実大振動実験**



#### 1981

社会課題にいち早く対応  
**日本初の「障がい者モデルハウス」建設**



#### 1982

自然エネルギーを利用してエネルギー問題へも対応  
**「PSH-21 (パッシブソーラーハウス)」発売**

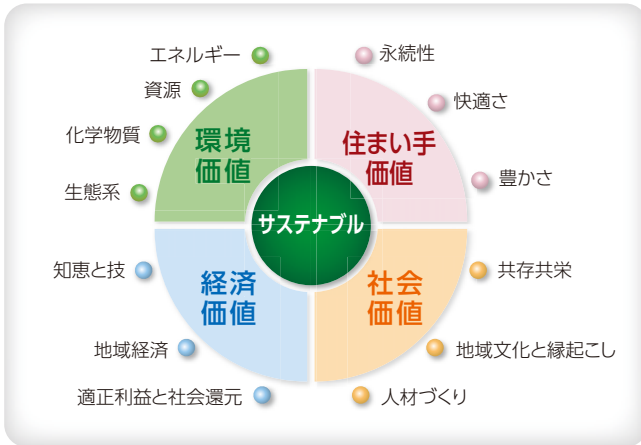
### 工業化住宅の基礎確立の時代

### 「デザイン」「性能提案」「親自然」の時代

## 2005「サステナブル宣言」

### 2006「13の指針」制定

当社は、目指すべき「持続可能な社会」をビジョンとして定義し、それを実現・検証するために「経済」「環境」「社会」「住まい手」の4つの価値によるバランスのとれた経営の実践を宣言しました。また2006年には、事業活動や意思決定の際のガイドとなるよう、それぞれの価値を掘り下げた「13の指針」を定めました。



## 2009「グリーンファースト」発売

### 2011「グリーンファースト ハイブリッド」発売

持続可能な社会のため、快適な暮らしと環境保全を両立する「グリーンファースト」を発売。2011年には、世界初3電池連動制御の「グリーンファースト ハイブリッド」を発売しました。



2010

累積建築戸数  
200万戸達成

2010

1993

累積建築戸数  
100万戸達成

1990

1990

研究者と生活者が共に住まいを考える  
公開型の研究所がオープン

「総合住宅研究所」開設

1996

高断熱、高性能遮熱断熱複層ガラスなどの  
標準化で快適性と省エネルギー性を両立

「セントレージΣ」発売

1997

太陽光発電システムを  
標準採用

「ソーラーΣ・A」  
発売



1999

個別の環境対応を横断組織で統合し経営課題に

「環境未来計画」発表

2000



2001

地域の自生樹種や在来樹種中心の  
庭づくりで生物多様性を保全

「5本の樹」計画開始

2002

住宅のライフサイクル全体を  
自社グループで支える資源循環を実践

「工場ゼロエミッション」達成

2003

戸建住宅の断熱性能を向上

次世代省エネルギー仕様を標準化

2004

すべてのステークホルダーに  
誠実に責任を果たすことを宣言

中期経営ビジョン発表

被災後の自立生活を支える生活空間、  
水や食料、エネルギー確保がテーマの

「省エネ・防災住宅」発売

2005

時とともに美しさが増し社会の財産となる  
「経年美化」のまちづくりを宣言

「まちづくり憲章」制定

2007

資源を有効活用する  
「再生住宅」の新市場を創出

「エバーループ」事業開始

持続可能な木材利用を目指す

「フェアウッド調達」を推進

「木材調達ガイドライン」制定

地震エネルギーを熱に  
変換し吸収する  
大臣認定の「制震構造」

制震システム

「シーカス」発売



2008

環境省創設「エコ・ファースト制度」の  
業界初の認定を受け、環境課題に取り組む

「エコ・ファーストの約束」

北海道洞爺湖サミットで公開

「ゼロエミッションハウス」建設協力



## 住宅の「質」と「性能」拡大向上の時代

- 1992 ブラジルで地球サミット開催
- 1993 環境基本法施行
- 1995 阪神・淡路大震災
- 1997 京都議定書採択

## 「環境配慮」と「快適性」両立の時代

- 2000 住宅の品質確保の促進等に関する法律（品確法）施行
- 2002 建設リサイクル法全面施行
- 2005 京都議定書発効

- 2006 住生活基本法施行
- 2009 長期優良住宅認定制度開始
- 2010 生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）開催
- 2011 東日本大震災

サステナブル社会実現への責任と取り組み

# 常に社会の要請に応えながら、 持続可能性を追求しています

## 「グリーンファースト」の進化で、 「SLOW & SMART」な理想の未来を構築します

当社が2009年から普及を進めている「グリーンファースト」は、「快適性」「経済性」「環境配慮」を同時に高いレベルで融合した住まいです。安全・安心で、快適な暮らしを提案し、経済性に優れ、環境にやさしい暮らしを実現するだけでなく、住まいの長寿命化、低炭素社会の実現などに寄与する環境配慮型住宅として市場に定着しました。

住まい手が我慢を強いられることなく、地球温暖化防止、省エネルギー、生態系保全、廃棄物削減、少子高齢社会、健康や防災などの社会課題を解決に導くとともに、より良い社会の醸成を目指す住まいとして現在も進化を続けています。

そして、今、住まいで実現できる最善の快適「SLOW」を先進の技術「SMART」で解決に導く、という当社の志をブランドビジョン「SLOW & SMART」と位置付け、低炭素社会、循環型社会の実現に向けた今後の事業の推進力としています。

当社は理想の未来図を描きながら、この取り組みをさらに高いステージへと引き上げ、社会的責任を果たしていきます。

# SLOW & SMART

ゆっくり生きてゆく、住まいの先進技術。

### スマートUD

未永く住まうための「生涯住宅」提案

### 家族のカタチ

多様な家族の住まい方提案

### スローリビング

自然とつながる豊かな暮らし提案

### 私のスタイル

趣味やこだわりを実現する提案

### グリーンファースト

エネルギーフリーの住まい提案

2013

自由設計とオリジナル構法  
家族を守る耐震技術  
美しく強いオリジナル外壁

エコを実現する省エネ技術  
空気にも配慮した健康技術  
高品質を維持する技術



地球温暖化防止

省エネルギー

コミュニティの再生

環境共生・生態系保全



教育問題

廃棄物削減

安全・安心

少子化

高齢社会

## 「ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス (ZEH)」を、「グリーンファースト ゼロ」で先取りします

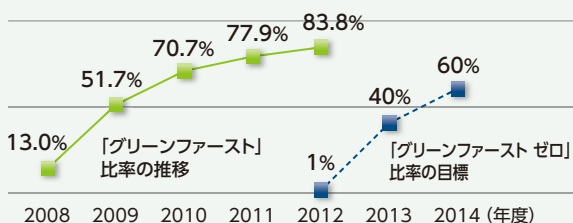


政府は、日本の全消費電力量の約3割を占める家庭部門での住宅ゼロエネルギー化を推進し、2020年までに1次エネルギー消費量が正味(ネット)でおおむねゼロとなる「ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス (ZEH)」を標準的な新築住宅とする目標を掲げています。

当社はこの取り組みを先取りし、従来の「グリーンファースト」をさらに進化させた「グリーンファースト ゼロ」を2013年4月8日に発売しました。「アルゴンガス封入複層ガラス」「高断熱サッシ」などによる「ハイグレード断熱仕様」に加え、「高効率エアコン」「LED照明」などの省エネルギー設備や、日射・通風配慮設計などのパッシブ技術を採用。高い断熱性と最新の省エネルギー設備で消費エネルギーを大幅に削減し、太陽電池や燃料電池の創エネルギーで「住まい心地向上」と「エネルギー収支ゼロ」の両立を目指します。

当社は新築戸建住宅における割合を、2013年度は40%、2014年度は60%に高めることを目指し、より環境負荷の少ない社会づくりに寄与していきます。

### ■ 「グリーンファースト」比率の推移



- 1. 高断熱化**  
ハイグレード断熱仕様、アルゴンガス封入複層ガラスを標準採用
- 2. 総合的な省エネルギー**  
高効率空調設備、節湯型機器、LED照明、HEMS標準採用
- 3. 自然エネルギー利用**  
方位別ガラス、日射制御+通風配慮設計

太陽電池・燃料電池の創エネルギーに加えて、上の三つを強化することで「快適性・経済性・環境配慮」のユーザーメリットをさらに向上させる

